

安全人報誌

安衛委 No107
平成22年10月16日

安全パトロール実施

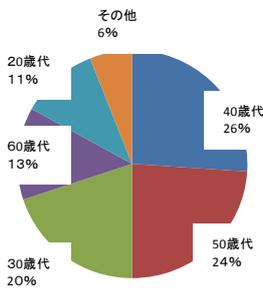
全国労働衛生週間にちなみまして、九日（土）に安全衛生パトロールを実施いたしました。

社長および安全衛生推進委員が、広域農道田村三期、南町通仲上線道路改良、総合流域防災館地区、入ノ作一号線道路改良、湯田線道路改良、公共下水道渠元池第二、大越幼稚園保育所解体現場を点検してきました。各現場とも指摘事項はなく、整理されており安全に取り組んでいる作業員に労をねぎらいながら声をかけていました。これからも、安全第一で作業をしてくださいとのことでした。



事故を含め飲酒運転で検挙された人は、四十歳代など働き盛り、子育て世代が多くなっています。飲酒運転をすれば、悲惨な事故を起こす危険性が高くなるばかりではなく、検挙されれば厳しい刑事処分、行政処分が科せられ、さらには失業、家庭崩壊など悲惨な人生を送ることとなってしまいます。飲酒運転は重大な犯罪であるとともに、全く割に合わない愚かな行為であることをしっかりと認識しましょう。

飲酒運転年齢構成



夕暮れの事故防止

だんだん日暮れの時間が早くなり、帰宅する時間と重なるなど交通事故が多発する時期になってきます。夕暮れから夜間の歩行者等の被害事故を防ぐには、いかにして歩行者・自転車等を早く発見するかがもつとも重要です。



夜間は、原則上向きライト走行で確実な切り替えを徹底し、歩行者等の早期発見に努めなければなりません。ライトの届く範囲しか視認できないときは、速度を控えて人影が見えたり、人かもしれないと思つたら減速してください。

各現場での安全対策又はヒヤリ体験談

今回は公共下水道事業管渠布設工事担当の斉藤武司さんです。

彼岸も過ぎ、暑さも和らぎ涼しさも感じられる時期、前回施工の（東部台）の現場を思う。例年なく梅雨の時より高温で明けたと思つたら猛暑が連日続く中での作業だった。朝のミーティングで熱中症予防対策についての話し合いが、毎日行われた記録がある。現場での接触・第三者保護の対策より

自分の健康管理対策が多かった記憶がある。こうした中でも、体の変調を訴えた作業員がたことは、責任者として、皆々の健康管理等を把握出来なかつたことに、反省をしたしであります。又、施工中に測量機器の破損事故が発生してしまつた。この時は、警備員を2名施工区間の前後に配置し、安全第一で作業を進めていたが、測量（管理）のため、工事区間の出入りにセットして、作業を進めている中、残土出しのダンプで（後進）接触し破損してしまつた。作業の手順等、どうしてもバックしなければならぬ時の誘導方法等の安全対策を講じ、ミーティングにおいて、周知徹底して、作業に臨むよう肝に銘じ、今後の現場に反映していきたい。

最後に作業員の方々には、猛暑中、工程より早い完成となつたこと、無事検査も終えたことに対しでもお礼を申し上げます。



竣工写真